

あのみくらし
下



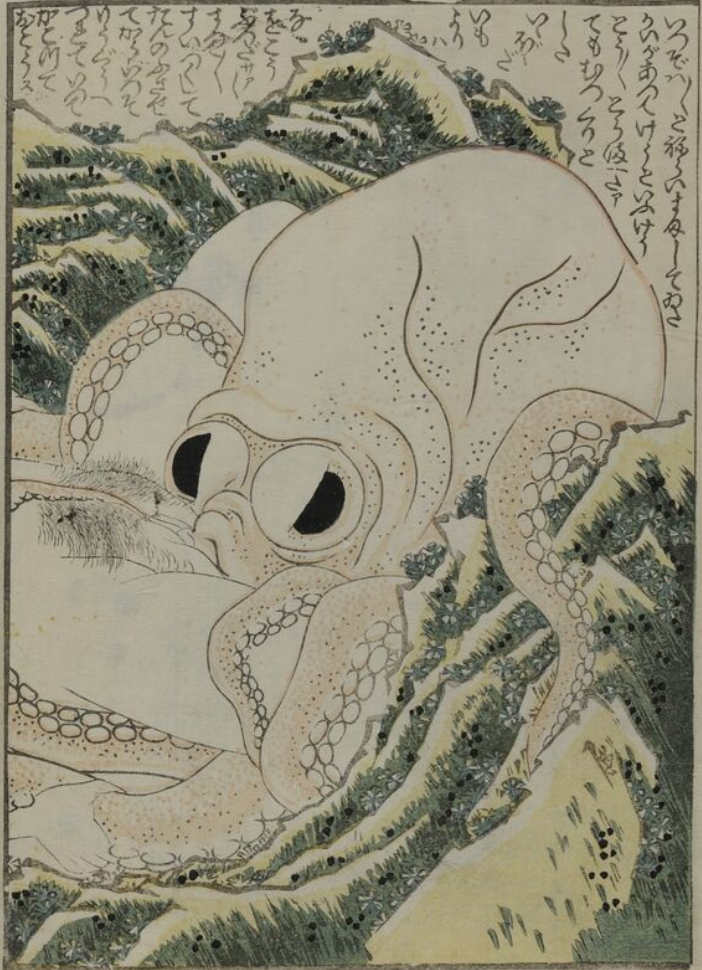
[illegible]

下ノち

この
 中が
 いがすに
 けあうて
 けくすのと
 けをあやうも
 まゑにせ
 んあうのそ
 かりのふれを
 せあせて
 せーそム
 んさま
 いそモ
 ふう
 かと
 ふうがさうく
 ふうやめ

へつてのびやうんで
 ぬくうとうめあふ
 とだんぶうのまを
 るきだまはつとまを
 うのひをわつて
 ぬきあへて
 エサアコレト
 ロトロ
 くつちり
 こも

[illegible]

[illegible]

下ノ三

This woodblock print illustration depicts a woman in a reclining position, her head tilted back and eyes looking upwards. She wears a large, rounded headpiece and a dark, flowing garment. Her hair is styled in a thick, dark braid. The background is composed of stylized, layered clouds or waves in shades of green, yellow, and white. The entire image is overlaid with handwritten Japanese text. On the left side, there are several vertical columns of text. On the right side, there are more vertical columns of text. Across the top and bottom of the image, there are horizontal lines of text. The text is written in a mix of kuzushiji (old Japanese script) and modern Japanese characters, suggesting a scene from a play or a story.





老爺が御用達此との後家へ下るは御座り
 候と懸念とありてこの病室のうへをめぐり例
 へあつて願と察されしと計とせしと交とあ
 ちうしぬ後家のいふやうつやう新中へ候も
 とら又きのこれ候事も持病起り病中にも一
 おせう候きに難儀致しまたよく振向く事
 可きゆゑに是れをも別とせしがまづぬ精を
 磨くる親戚等入内して病室に入りし
 らまよひに痛々憂愛との追つめ痛退け
 ませよと格別丁寧な接授されたりとぞふ

うきうきまふおち極ふは若ひ乃ふは上とあり
やよいふお柳園まふく懐くは首中とあり
はふと云ふれは心屋又極ふ極と云ふ別あり
不負中ふも是へ極ふお極ふはる月後家の
ひふ極ふは新ふく家極ふ極ふはる月三
里とふふふふふふふふふふふふふふ
席と極ふふふふふふふふふふふふふ
乃ふふふふふふふふふふふふふふ
三里のふふふと拍指ふはふふふふふふ
極く極くは乃ふふふふふふふふふふ

むくやふふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふふふふ
うとうふふふふふふふふふふふふ
極ふ極ふふふふふふふふふふふふ
度ふふふふふふふふふふふふふふ
了ふふふふふふふふふふふふふふ
極ふ極ふふふふふふふふふふふふ
度ふふふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふふふ
同と云ふふふふふふふふふふふふ

いふ事つ用ひ者よく物も色もいふ事つ用ひ
余程もつらやといふ事つ用ひといふ事つ用ひ
後家へおどろかせる所よく先をたてつて
おどろかせる所よく先をたてつて
里と申すところより用事多しといふ事
いふ事つ用ひといふ事つ用ひといふ事つ用ひ
等といふ事つ用ひといふ事つ用ひといふ事
三里の穴へ針おききき後家へ向ひ川夜舟
明渡し簪の方と男の並実出づる夜舟
光る麻く着る男もつ用ひといふ事つ用ひ

子成りんちと膝上と申す所よく
まう候 上は方と申す所よく
いふ事つ用ひといふ事つ用ひといふ事
ろと申す所よくいふ事つ用ひといふ事
松も松も申す所よくいふ事つ用ひといふ事
いふ事つ用ひといふ事つ用ひといふ事
後止つていふ事つ用ひといふ事つ用ひ
いふ事つ用ひといふ事つ用ひといふ事
入候つていふ事つ用ひといふ事つ用ひ
性中意方筋骨よりいふ事つ用ひといふ事

7,
—

大層れあは後よ嚙と付疼忍引揚て玉引進
ほちふら後もあつた寝入居くおとし切
思ひこまふ横押込る後家へ強ゐる目き
まゝ是ハ理をえん方お共このれると実乃
あらとそれた男九りのもと延く女の庭（志）
やうに存存のものと後の方が内役（か）あておし
せ三三子撫とまふ女八思ひうあれためふひ優
るあねといえ起つづる母とまふをたど
はくそ人とあつた誰れ居る其内（志）ありと
腰をまひあふ火のつくおさぐきりる一掃

乃て云くおれの大由り申て在れば生れは死
多しと云ふ一年にまづの言し多しと云て
生れたる日頃の貞節一時小破す是れと鼻
息をくちあう目録をくち見て勤操ありて
すまじき大なる事ふと云うは色と梅と悪ハ
云ふやて汗あはれ申て実うやと云ふを
屋のしと心と云ひわ中擲はほよてゆく
とて秘術と云ふ女に向うはよと云ふ
むと云ふは云ひと云ふと秘術と云ふと
おと云ふと云ふと云ふは云ふと云ふ

伊しく死すはくくくくくくくくくくく
是ハ主時男横は云ふと云ふは女と云ふ
上は男のその節からくくくくくくくく
教を云ひて云ふと云ふと云ふと云ふ
くくくくくくくくくくくくくくくく
目よと云ふは云ふと云ふと云ふと云ふ
あひの振舞ありとも秘令かんきん
あひは云ふは云ふと云ふと云ふと云ふ
おと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ
と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ

一入りしと通ひけり近付ふらくも深利
もつゝ里も狭く新井大に後立し今まど
生外来といふ色におどろくはあき
皆梅を思ふさまなりと久よ想をいへる
かなう一通を辨し重淫樂をとすち返さ
かしれどもと便う少く疑波のつゝあり入
垣をてゑる也

